

1. 経緯

- ◆現在の首都高速都心環状線は、昭和39年の東京オリンピックの開催に向け整備に急を要したことから、日本橋川の上部空間を利用し、昭和38年に開通しました。

現在の日本橋周辺の様子



- ◆開通から50年以上が経過し、過酷な使用状況にあることから、コンクリート床板のひび割れや鋼桁の疲労き裂などの損傷が多数発生しており、長期的な安全性を確保するため、構造物の更新(造り替え)が必要となっています。
- ◆一方、日本橋周辺において都市再生プロジェクトが立ち上がり、まちづくりの機運が高まっています。
- ◆構造物の長期的な安全性の確保とともに、国際金融拠点にふさわしい品格のある都市景観の形成、歴史や文化を踏まえた日本橋の顔づくりに向け、現在の都心環状線の交通機能を確保しつつ、まちづくりと連携しながら、地下化に向けて取り組みます。

2. 位置図



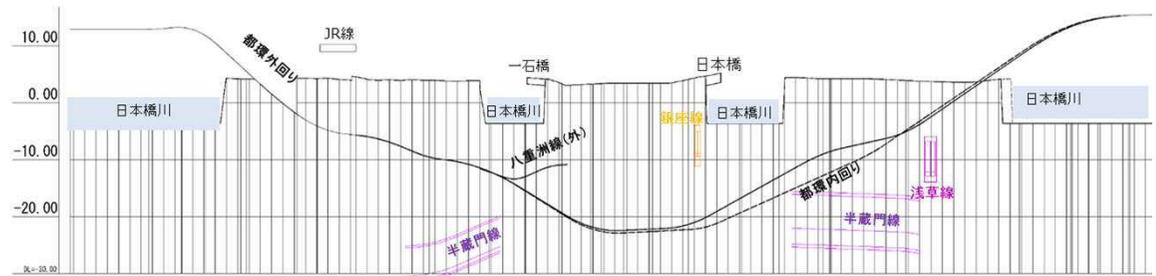
都心環状線
(神田橋JCT～江戸橋JCT)

3. 地下化対象区間の概要

平面図



縦断面図



- ◆ 上記は、平成29年11月から平成30年7月にかけて行われた「首都高日本橋地下化検討会」で取りまとめた計画案です。
- ◆ これを基に、都市計画変更素案を作成しました。